令和3年1月10日発行(毎月1回10日発行) 通巻329号

人生100年時代 共生社会の生き方情報誌

さまか)



地域共生社会の実現に 全力で取り組んでまいります

誰もが安心して、いきがいを持ち、

助け合って暮らせる地域共生社会づくりに

財団一同、総力を挙げて取り組んでまいります

どうぞよろしくお願い申し上げます。本年も変わらぬご支援を賜りますよう

公益財団法人さわやか福祉財団 会 長 堀田 カ

職員一同



2021年1月号

CONTENTS

2 新しいふれあい社会 実現への道 巻頭言

コロナ禍を乗り越えて共生社会を創ろう

選択と協力が未来を決める 清水 肇子

- 4 新連載 厨房男子 みそ汁の味 丹 直秀さん 聞き手・堀田 カ
- 10 特別寄稿 善意の受け皿 弁護士 清水 勇男
- 14 広げよう つなげよう 地域助け合い 活動の現場から
 - コロナ禍の今を生きるすべての人へ
 - 一人ひとりを想い、できることをすぐに 認定NPO法人ハーモニーネット未来(岡山県笠岡市)
- 22 移住 悪くないですよ

本当の豊かさとは

川口 幹子さん (長崎県対馬市)

- 29 「地域助け合い基金」 状況のご報告
- 30 応援ありがとうございます! 「地域助け合い基金」 助成先のご紹介

新しいふれあい社会づくりに向けて

- 新地域支援事業・ 助け合いの地域づくり36 北から南から 各地の動き
- その他の財団の活動 など
 - 41 で支援ありがとうございます。 さわやかパートナー(賛助会員)・ご寄付者の皆様のご紹介
 - 43 NEWS & にゅーす
 - 44 さわやか活動日記(抄)
- €「地域助け合い基金」ご寄付のご案内/④緊急提言ご賛同のお願い
- ⑩ 「地域助け合い基金」助成応募のご案内/⑩『さぁ、言おう』 8月特別号のご紹介
- ②『助け合い大全'19』のご紹介/⑤みんなの広場
- 砂 さわやかパートナー・『さぁ、言おう』のご案内/表紙絵から

助け合いを広げよう! 新・ひとりごと • 堀田 力

ロナ禍を乗り越えて 社会を創ろう

選択と協力が未来を決める

さわやか福祉財団 理事長 清水 肇子

り混じった気持ちで揺れているのではないだろうか。 続く中で、新しい年の幕が静かに開いた。誰もが、今年は大丈夫だろうかと、不安と期待の入 世界中が思いもよらぬ新型コロナウイルス感染症との闘いに明け暮れた1年。心配な状況が

など、厳しいやりくりの中で必死に頑張ってきた気持ちが折れそうになるほど、つらくなって 仕事先を突然解雇されたり、内定を取り消されたり、大学を退学せざるを得なくなったり、特 不安、心細い思いを抱えて孤立し、待ったなしの状況に追い込まれている人たちが大勢いる。 いる人たちが、私たちのすぐ傍らにいる。 に現役世代や若者の生活の歯車が大きく狂ってしまった。ひとり親で子どもを育てている家庭 今この瞬間も、感染症に苦しむ人たちに加えて、コロナ禍による経済的な困窮や先行きへの

いた。コロナは日本社会で見過ごされがちだった課題を一気にあぶり出したのではなかろうか。

貧富の差の拡大、

孤立、差別に排除。

しかし実は、こうした問題は以前から深刻化してきて

|かなはずの日本で私たちはどこまで助け合いの支援を広めていけるだろうか

私たちは自助と自己責任を強調する冷たい社会を選びますか? それとも、 なら未来は、今の人々の選択で大きく変わってしまうからと。環境問題然り。自然界もかつて ない速さで生態系が崩れている。今誤った選択をすれば社会の未来ががらっと変わってしまう。 アフターコロナ? いやいや未来予測をすることはもはや難しい、とある識者がいう。 つながり合い、

コロナはその岐路を図らずも鮮明に突きつけている。 いやり、困ったときには助け合いながら、皆がいきがいをもって暮らせる社会を選びますか?

、共生社会、。 それは絵に描いた理想という人もいるかもしれない。けれども、

支援の手を自然に伸ばした活動が新しく広がっている。そうした活動を支援したいと、多くの の学習塾を立ち上げたり、 の大変な状況を何とか助け合い、つながり合って乗り越えていこうと、食事を届けたり、 し合う力と意思を持てたからこそ、成し遂げられてきたものだ。頼もしいのは、このコロナ禍 外国人のサポートをしたり、手紙の交流を始めたり、

間社会の進化は、すべてこうありたいという強い希望を持ち、それを信じ、そして、皆が協

これまでの

人たちからのご寄付がさわやか福祉財団に寄せられている。 お一人お一人のそうした選択と協力が、新しい共生社会へのまさしく胎動となってい

た未曾有の困難から得た知恵とやさしさは、 っている。 いつながり方まで学び合うことができた。 たとえば手紙やITの活用など、 これまで家にひきこもりがちだった人たちとの コロナ禍後の社会づくりへの大きなヒントにもな

たい。本年もどうぞよろしくお願いいたします。 大変困難な状況は続いているが、だからこそ目指す先をしっかりと共有し、できることで助 誰もが希望を持って暮らしていける社会づくりを今こそ皆さんとすすめていき

新 · 連載

堀田 力

みそ汁の味

丹 直秀さん

私自身は、未だに調理が苦手で、目玉焼きしかつくれない。そこで調理を苦にしない男性 奨めてきたが、けっこうハードルが高いのが調理である。人様にはお奨めしながら、当の だ男性は、身内も身内、さわやか福祉財団理事の丹直秀さんである。 企業OBたち何人かに、そのコツを聞いて、課題克服の道を探ることにした。最初に選ん

味は自分がつくったみそ汁が一番

手軽に丹さんに白羽の矢を立てたわけではな

サラリと漏らしたこの一言に参ってしまった。

平素謙虚でめったに自慢話をしない丹さんが、

がつくったみそ汁の味が一番ですね

「私も外食は多いですが、どこで食べても自分

男性企業OBに生活支援ボランティアを

動をされ、 給与換算で2億4千万円相 当の社会貢献をしたことになる

, v

「ハイ」とすました顔である。

た。

きなくなって3日目に自宅で静かに亡くなられ

「どうして、そこまでになったのですか?」

め手であるが、多種な具をさまざまに組み合わを簡略に書くと、要するにみそ汁の味は具が決ここは料理法を紹介する場ではないので答え

すか」 「それ、奥さんもおいしいと言ってられたんでって最高無二の味にたどりついたのだそうだ。

せながら試行錯誤を積み重ね、ついに自分にと

ったですから」 「ハイ。妻は私が好む関西風の味付けが好きだ

丹さんは、昨年7月に奥様が亡くなられるま

「あいい、こがいてましている。ために食事をつくってきた人である。で3年ほどの間、一人自宅で看病をし、奥様の

の椅子に座って食事をされていたが、それもで炒め少々。最後までベッドから起きてリビング後に食べられたのはやはりみそ汁、ご飯と野菜「おいしい、まずい」をはっきり言う奥様が最

□つくり出すのが好き

もうけて育て上げ、あとは横浜の自宅で悠々の専業主婦の奥様との間にお嬢さんと息子さんをか福祉財団ボランティア活動の中枢として24年、かれにしても、住友生命勤務の37年、さわや

「料理は、つくり出すのが楽しいんです。絵とし顔なのは、なぜか。業人の丹さんが、苦も無く調理をこなしてすま

二人暮らしという、

いわば典型的な昭和男性企

「絵!!」

意表を突く説明である。

にも毎年ご出展と聞いているが、残念ながら鑑そういえば、丹さんは絵をたしなみ、絵画展

· 5 ● さままお 2021

賞の機会を逃している。

一絵は子どもの頃から好きだったのですか」

響もあってか、富山の中学時代にはゴッホなど 絵をたしなんで入選もしていた叔母さんの影

の画集を自分で買ってきて模写をしながら腕を

は、 磨き、 ものをつくるのが好きで、東大の学生時代に アジフライやエビフライをつくり、 美術の先生から認められて指導を受けた。 友達に

好会の一つの美術部を立ち上げ、部長に推され 959年、住友生命に入社後は、 社員の 同

ふるまって喜ばれていた。

こととなった。

嘱託で会社に残る道もあり、

関係会社に行く

暇 て絵の先生を探し、交友関係を広めて楽しい余 の時間を持った。

ちなみに就職先に住友生命を選んだのは、当

たからで、 野趣味があっておもしろそうと感じたからだそ 安心をつくり出す平和産業だという点に惹かれ 時のきな臭い冷戦時代にあって生命保険は人の 中でも住友生命は、 OBの話を聞き、

うである。

定年退職後の生活の選択

が、 時代、 るなど、順調にサラリーマン生活を送ってきた 長を辞め、夢中で働いて本社の管理職に昇進す 「モーレツ社員」が仕事を競い合った高度成長 60歳定年を前にして退職後の人生を考える 丹さんも時代の波にのみ込まれて美術部

という気はなかった。師範学校の校長だったお 出ていってしまったこともあり、働いて稼ごう 道もあったが、2人のお子さんが結婚して家を

じて復職の道を断り、自適の生活に入られた潔 父さんが、終戦後、 い生き方の影響もあったのであろう。 戦争協力の教育の責任を感

ながりながら、楽しく人に役立つ生き方をした 祉ボランティアなど40ほどに上ったが、人とつ 第二の人生の候補は、 市民農園、 鎌倉にある円覚寺の寺男、福 晴耕雨読、絵の基本の

習得、

いということで、雑誌でその活動を知ったさわ

やか福祉財団の理念「新しいふれあ い社会の 創

入り、 造」の、 さわやか福祉財団を選んだ。 新しくつくり出すというところが気に

「本当に有難いことですが、収入はないし、

ボ

時に始めました」

ランティアって人間関係が煩わしそうとは思わ

なかったんですか?」

国 の旅順から引揚げ、 収入の方は、私は終戦後、親に連れられて中 無一文で食うや食わずの

ら、 ぜいたくをしなければ年金でやっていけますか 生活をしましたから、 それ以上は考えませんでした。世界一周ク 粗食もいとわないですし、

1 引 に行きたいと相談したら、 妻もあっさりオ

ケーしてくれました。

ルー

ズはできないけれど、

さわやか

(福祉財

それぞれが自分のしたいことを自由にやられて W わやかに入る前に事務局長さんに会って、 ろ活動の内容をうかがいました。そうしたら、 ボランティアの人間関係については、 私はさ e V

> やかを選ぶとともに、 たいという一面とがあって、それで一方でさわ が楽しいという一面と、 いて、これは面白そうだと思って決めたのです。 私は人とにぎやかに何かに取り組むの 他方で絵を習うことも同 一人静かに時を過ごし

絵から調理へ

教えているテンペラ画の権威、 に近い、鎌倉市にある早見芸術学園専門学校で 丹さんが選んだ絵の先生は、 十と 二に 住まいの横浜市 芳明さん。

が描いているのは水彩画から油彩まで様々。 毎週土曜日に通って基本を習いながら、丹さん 藝大卒、西洋美術畑で素材にも詳しい方である。

数名。 生徒側は 年に1回は絵 30代から90代まで、 画展を開い 男女取り混ぜ10 てい る

たちにふるまうパーティーをしよう」と言い出 十二先生が 「男性たちで料理をつくって女性

したの は、 7 8年前。

十二先生

ぞれ

が担当分の料理をつくる。

ある日のメニュ

はコブサラダ、

バ

ゲットのキッシュ、

タイ風

認、

買

() 出

料理を出す順番を決めて、

毎日 の指導で男性生徒3名ないし5名が献立を考え、 料理をつくっているから、 教員として勤める奥様のために 腕は一人前。 そ

調 食材を買 い整え、 理した。



飲んだら、そりゃ楽しいに決まっている。

片付け

女 担 男性は、

る90代の

会計や後

ば

顧

個と呼 れて

人目が丹さん)

たが、

奥様の体調が悪くなっていくにつれ、

順

側。

他

0

理を待 性陣と料

男性陣

レシピ確

食べて、ビール、 方 丹さんはコブサラダを担当、 イヤベース、 春雨サラダ、 くなっていったそうである。 これだけの料理をワイワイつくり、 調味料の使い方などは見よう見まねで上手 デザートに食パンミルフィー イワシのつ ワイン、 みれ汁、 日本酒を好き好きに 野菜、 フライパンブ 果物 ワイ 0) ・ワイ 切り ユ。

んは、 ために活かした。 十二教室料理研究会でさらに腕を上げた丹さ ずれ居場所で調理を

定年退職後は毎日丹さんが朝食を担当して その腕を3年間の在宅介護で毎日奥様の

それ

次つくり置き昼食、テーブルで向き合う

夕食に広げていったのである。

しい」と食べてくれたのが、 スを考えてつくった料理をい 批判は厳しい奥様が、 常に栄養バラン つも 温かい思 「お

は、丹さんも協力して近所の空き家を活 そして、奥様を亡くされた今、 丹さん

出になっている。

用して発足した自治会の居場所 ットひぎり」)で食事会を開き、 (一サロ そこで料理す

ろうかと考えるのは、けっこう楽しいですよ。

と計画を練り始めている。 ることを企て、居場所の主催者である自治会長

どんな料理になるのか、

つくるのが楽しい人

違いないだろう。 たちのワイワイガヤガヤの食事会になるのは間

ますよ」

ご同輩、丹さんの言葉を信じましょう。

きっと周りの素敵なおばさまたちが助けてくれ 仲間をつくっていくのもいいかもしれません。

コーヒーをいれるのを手伝うようなところから

はじめは、みんなの集まる居場所に行って、

丹さんに、 男が調理を始めるためのアドバイ

に思ってやってみたらどうでしょう。何をつく スを聞いた。 深刻に考えないで、 リタイヤ後の趣味くらい



000

善意の受け皿

弁護士 清水 勇男

様の共感があり、それが私たちの活動の大きな原動力になっています。 ただきましたので、ご紹介します。 「地域助け合い基金」。 いずれも、その根底に、温かい社会をつくりたいという皆 当財団の発足以来ずっとご支援してくださっている清水勇男さんからご寄稿をい 賛助会費や一般ご寄付、ご遺贈、そして、新しく呼びかけさせていただいている さわやか福祉財団の活動は、全国の皆様の貴重なご寄付で支えられています。

遺言は遺産をどうするかということが中、ののでででである。検事してまもなく、所属の公証ののででである。検事からな証人へ転身してまもなく、所属の公証ののでである。検事からのでである。検事からのでは遺産をどうするかということがある。検事からのでは遺産をどうするかということがある。検事からのでは遺産をどうするかということがある。検事からのでは遺産をというできない。

心だから、死という言葉を避けて通るわけ

だが、どうも遺言の普及活動は自分には荷き」とか婉曲な言い回しを心掛けていたのそこで「あなたに万が一のことがあったと

悪いことをいうな」と反発されかねない。が死んだとき」と言ったら途端に「縁起がにはいかない。だがストレートに「あなた

さままち 2021.1 • 10 •

場の公証人を長く務められた森保氏の著書 が重いなと思っていたとき、世田谷公証役 言を中心に五○話が上手に収められている。 「遺言は愛のメッセージ」に出会った。遺 誰もいない、それなら自分が生まれ育った

公正証書遺言というのはそのメッセージが の遺産の全部又はより多くを残してやりた れた人、自分が死んだら一番困る人に自分 いと思う人の最終的なメッセージであり、

うのは、

例えば自分に一番やさしくしてく

読み進めるうちに気が付いた。遺言とい

のことを目玉にして広報活動を進め、それ から助言してまとめ上げる文書である。 確実に実現できるよう公証人が法的な観点

祉財団に対応してもらい、

解決した。

あるのだが、残してやりたいと思う身内が 兄弟もいない、土地建物と若干の預貯金が こんな相談があった。自分は独身で、 親 ではない。

なりの手応えがあった。しかし物事は単純

たとのこと。自治体によって寄付や遺贈の るが、土地建物は遠慮したいという話だっ ろ、町では現金と預貯金は有り難く頂戴す 町に寄付しようと思って相談に行ったとこ

取扱いはまちまちで、土地建物は遺贈を受 かかり、その物件に抵当権等が付いていて けても登記移転手続きなどに手間や費用が

であった。幸いこの相談の件はさわやか福 面倒なことになる、などが敬遠される理由 債権者も多数に上るとなると換価手続きが

気持ちがある。災害発生時に復興支援のた るのもその現れである。遺産は妻子やごく めボランティアが全国から大勢集まってく 人間には誰しも人の役に立ちたいという

普通だが、そういう親しい者がいてもいな 親しい者に残してやりたいというのがごく

と願っている人々が多い。 くても遺産の一部は広く社会に還元したい

他一物なりとも何か世間の人の情の籠もっ であった。手に持つ新しい笠や草鞋、その 「生きてゐること、それはすでに世間の恩

があるだろう。

蔵」円明の巻 た物でない物はない」(吉川英治「宮本武

確かに身の回りの品々をざっと眺めただ

とき人は大切に守ってきた財産の寄付や遺 おかげ、社会のおかげなんだと深く感じた がこうして生きてこられたのは、みんなの 経てきたものであるかに驚かされる。自分 けでも、 それらがいかに多くの人々の手を

組織、 問題はその思いを誠実に実現してくれる 団体つまり受け皿 の問題である。

贈を決意するものと思われる。

その財産が団体の呼び掛けどおりにきちん 財産を寄付なり遺贈をしようという人は、

と社会に役立つように使われるのかという ついてきちんと具体的に説明しておく必要 財産の拠出を呼び掛ける団体はその使途に ことに強い関心を持っているものなので、

して踏み切った「地域助け合い基金」の創 実現を目指してさわやか福祉財団が満を持 立無援化が進む時代の中、地域共生社会の コロナ旋風のいまだに収まらず人々の孤

助成先団体や費目等も明らかにされている。 なお、財団のHPでは、これらの情報が

載され、月別の寄付受付額と助成実行額

設。その収支は

『さぁ、言おう』に毎号登

条の光となって地域共生社会を導く力にな 断に敬意を表し、この基金が闇を照らす一 日々更新され、活動報告が紹介されている。 私は、この時代、さわやか福祉財団の決

ることを信じ、応援したい。

「地域助け合い基金」で

コロナ禍を乗り越えて共生社会へ

皆さまからのご寄付をお待ちしています!

1. 寄付金の使途

共生社会を推進するため、助け合い活動の支援に活用させていただきます。 助成の対象は、地域で暮らす人同士の助け合い活動であり、新たに団体を設 立する場合のほか、新たに活動を広げる場合やコロナ禍に対応して特別な助け 合い活動を行う場合も含みます。

高齢者、子ども、認知症、障がい、生活困窮の方々、刑余者、外国人、ケア ラーの支援ほか、分野は問いません。ただし、日本国内の活動に限ります。 本基金は、支援したい市区町村(区は東京都の特別区)をご指定いただけます。

2. 税制上の優遇措置

当財団にいただいたご寄付は、税制上の優遇措置の対象となります(当財団 発行の領収証が必要となります)。

3. ご寄付の方法

(1)銀行振込によるご寄付

三井住友銀行 浜松町支店 (普通) 口座番号 7859452 三菱UFJ銀行 浜松町支店 (普通) 口座番号 0095446 (口座名義 ※いずれも同様)

公益財団法人さわやか福祉財団 地域助け合い基金

※銀行お振り込みの場合は、送金者の情報がカタカナ表記のお名前のみとなるため、 当財団発行の領収書が必要な場合や地域の指定をご希望の場合は、お手数ですが 「寄付申込書」を当財団宛お送りください。当財団へのお電話でも承ります。

(2) 郵便振替によるご寄付

(口座記号番号) 00110-7-709627 (加入者名) 公益財団法人さわやか福祉財団

※通信欄に、ご指定がある場合の市区町村名(区は東京都の特別区)と、ひと言応 援コメントなどをご記入ください。※手数料不要の振込取扱票をご用意しています ので、お申し出いただければ郵送いたします。

(3) クレジットカードによるご寄付

29ページのORコードもしくは当財団ホームページよりお申し込み下さい。

助成応募については、34ページおよび当財団ホームページをご参照ください。 「寄付申込書」「パンフレット」なども、ホームページからダウンロードできます。

地域助け合い基金担当

<寄付・助成のお問い合わせ> 電話:(03)5470-7751 FAX:(03)5470-7755 メール: mail@sawayakazaidan.or.ip

人ひとりを想い、できることをすぐに ロナ禍の今を生きるすべての人へ

認定NPO法人ハーモニーネット未来(岡山県笠岡市)

さまざまな手法を柔軟に取り入れながら、気持ちの行き届いた 提供したいと、緊急支援を実施しています。仲間同士で話し合 サポートをすぐに形にする活動は、周囲の共感と協力を得て困 い、資金集めのためのクラウドファンディングを利用するなど では、そんな親子の経済的・精神的不安に寄り添って安心感を 題の解決に取り組む認定NPO法人「ハーモニーネット未来」 しわ寄せが、一人親家庭などを直撃しています。地域の社会課 っている人たちの力になっています。 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、その経済的な

(取材・文/城石 眞紀子)

子どもから高齢者まで 安心して自分らしく!



暮らす港町だ。 島が広がる、人口約4万6000人が 干拓地と大小31の島々からなる笠岡諸 瀬戸内海に面し、南には広大な笠岡湾 岡山県の西南部に位置する笠岡市は、

たちの心豊かな成長を願い、「子ども ネット未来」は、未来を生きる子ども この笠岡市で活動する「ハーモニー

高齢者、 育ち支援の拠点づくりにとどまらず、 生活ができる社会をつくるための活動 県第1号の認定NPO法人となり、 2013年にはNPO法改正後、 目的としてミッションごとに集まった くことを目指して活動を展開している。 持ちの良いコミュニティを構築してい い社会の実現」という、 居場所をつくることにより、 でもある」との考えから、子育て・子 の人が安心して自分らしく、尊厳ある のためだけでなく、今を生きるすべて 年に現法人名に名称変更。 造性を!」を合言葉に1987 「笠岡子ども劇場」としてスタート。 子どものための活動は、子どもたち NPO法人とは、社会課題の解決を 99年にNPO法人格を取得し、 障がい者、若者等、 地域の中に気 現在は、 みんなの 「ふれあ 岡山 16

たちに夢を!」「たくましい豊かな創

未来が借り受けている

た。

何か我々に手助けできる 困難な子育てを続ける中 母さんとの出会いがありまし 4人の子どもを育ててい

るお

る宇野さん

も活躍されてい

くった仕組みが、子どもの送 ことはないかということでつ

には行政にも提言をします。たとえば、 課題が出てきます。それを解決するた を利用している人たちなど、多くの人 『こんなことに困ってるんよ』という 制度化するため 各活動 会 後に、 多くの市民と連携・協働しながら、 はじめ、 新たな課題を解決するために、 ンター 狭間にはやはり課題があります。 ですが、 てネットたすけ愛』 の設立にもつながってい **『笠岡市ファミリーサポートセ** ボランティア、 制度ができても制度と制度の 迎 預かり支援を行う『子育 事業です。それは NPO団体 行政を その 支

との出会いがあります。その中で、

がその使命です。正会員、

ふれ

あい

ひろば登録会員等に加え、

もので、より良い社会へ変革すること

めの仕組みをつくり、

援の輪を広げてきました」

こう話してくれたのは、理事長の字 まずまえ (70歳)。設立当初から、野均惠さん(70歳)。設立当初から、野均惠さん(70歳)。設立当初から、野均恵さん(70歳)。設立当初から、大きなけてきたものが、今では地域の大きなけてきたとなっている。JR笠岡駅から徒歩5分ほどの場所にある活動拠点には、歩5分ほどの場所にある活動拠点には、から、中間約1万600人もの人々が出入りしているという。

物心両面で緊急支援コロナ禍で困窮する家庭に

をんなハーモニーネット未来の細や でも力を入れているのが、社会 がなサポートは、新型コロナウイルス がなサポートは、新型コロナウイルス がなサポートは、新型コロナウイルス がなサポートは、新型コロナウイルス がなサポートは、新型コロナウイルス がなが、社会

事業だ。

厚生労働省の「2019年国民生活 は48・1%という高い水準にある。こ は48・1%という高い水準にある。こ

の影響に関する調査」では、シングル型コロナウィルス(COVID-19)む」が実施した「ひとり親家庭への新

マザーの約60%が「収入減」、

11 % が

青ないでは、と回答。さらに、春先の事がかさむ等の課題も浮き彫りになっるが家にいることにより、食費や光熱ー斉臨時休校で給食もなくなり、子どーの人無し」と回答。さらに、春先の

「感染拡大を防ぐために、私たちが開

として、昨年4月の開催日から一人親

いていた子ども食堂に代わる取り組み

したのです」
・
・
・
・
・
のです
・
・
・
のいう人たちに今できることは何かを
・
のいう人たちに今できることは何かを
・
のいう人たちに今できることは何かを
・
のいう人たちに今できることは何かを

の両面にどう寄り添えばいいのか。そ

けて支援を強化。毎月第4日曜日に開び、各種支援団体から新たな助成を受型コロナウイルス対策緊急支援」とし成を受けて16年に開始されたが、「新成を受けて16年に開始されたが、「新政法人福祉医療機構(WAM)」 の助

たちの活動に賛同してくださった企業

0

『久しぶり

フー F

バンクを含め私

の無料配布を

多くの企業や個人から寄せられた品々 開始した。 家庭などへ食料や日用品 支援物資は、









取りに来ら 事務所まで 品物を充て、 寄せられる

右・手作りのお弁当による ども宅食」

ルー形式で ドライブス れる方には

ŋ の郷土料理の普及活動を行っている 「井笠の味づくり研究会」による手作 0食用意したのですが、 五目おこわを、 11月はばら寿司を1

10月は地域

1

はうす』にも問い合わせがあり、

新

の共同住宅、

シェアライフ『ハーモニ

安心できる住居を提供することも、

たな住居が見つかるまで母子が安全で

受け取りはドライブスル 形式で らはお弁当 ます。そし ています。 食』もやっ 配布と宅配 手渡してい 『こども宅 10月か

> にお す 助かる』といった声をいただいていま ぱい食べさせることができた』 が不安定になり、収入も落ち込む中で いしいものを子どもにおなかい 『仕事 0

や個

一人から

学習支援の環境も整備衣食住に加えて

ともいわれる。 活が続くことで、家庭における暴力 ス)の被害を受ける母親が増えている 「私たちが運営する一人親家庭のため (DV=ドメスティック・バイオレン 今、 コロナ感染予防のため の自粛生

虐待でもあります。お母さんは我慢 ロナ禍での大切な支援と位置付けて 夫から妻へのDVは子どもへの

ます。

支援し、新しい人生に希望を持って歩 寄り添って自らの足で自立するまでを 復する力は持っていますから、彼らに 間が必要です。でも、親も子も必ず回 的・精神的に自立するまでには長い時 に、母子が心の安定を取り戻し、経済 んでいく未来を描いてもらいたいと願 てなかなか離婚に踏み切れないけれど、 人親にならざるを得なくなったとき

援も実施している。 り組みとしてオンラインによる学習支 そこで、食品・日用品、住居といった 衣食住に加えて、7月からは新たな取 貧困は、教育の格差にもつながる。

っています」

した」 ども達が希望する進路を実現できるよ 学習の遅れが懸念される中、塾に通う うに後押ししたい、と考えて企画しま 余裕がない家庭を支援することで、子 臨時休校が相次ぐなど子どもたちの



る学習支援

芳さんが責任者として、受講生に合っ ネット未来の副理事長も務める岡田淳 台とWiーFiを無料貸与し、 庭の小中高生。 している。 の授業で子どもたちの学習をサポート テキストと学習動画、月1回の双方向 たオリジナル学習内容の動画を制作。 広場笠岡」の代表であり、ハーモニー 対象は、一人親や生活に困窮する家 1世帯にタブレット1 「学習

> も受け付けています」 が、今後はボランティア講師を増やし、 を対象に、子どもについての悩み相談 ンライン学習を受講している家庭の親 また、このタブレットを利用して、オ 対象の受講生も増やしていく予定です。 1人と共にこの事業を展開しています 現在、動画専任のボランティア講師

援ではとても参考になる。 というアイデアも、この時代の学習支 子どもたちを大切に想う優しさがこの ットをフル活用して親の支援まで行う 企画を動かしているのだろう。タブレ 向授業を実施している岡田さんたちの、 非常に手間のかかる動画制作や双方

おなかいっぱい食べる幸せを 子どもたちに

する家庭が増えてくるのではと予想さ 人親家庭のみならず、 「コロナ禍の長期化に伴い、今後は 経済的にも困窮

ぱ 岡 用 物資もあります。 や企業からの支援では手に入りにく ものは異なっており、 支援と言っても、 挑戦しました。 ようと、 ネ らなる活動資金が必要です。 命まで脅かされることになりかねませ れます。 品がその Ш ッ 食べる幸せ、を子育て家庭に ŀ 「県内で活動する子育て支援団体と 支援を拡充していくためには、 ワ クラウドファンディング このままでは、 1 れるも 例で、 クを組んで、 3 乳児用ミル 各家庭ごとに必 言で食品 0) ル は変わってきます。 その中 クも月齢 生活どころ おなか そこで、 クや には H 用 ょ 地 要 衛 品 届 41 0 域 さ か 61 0

> ON Ŋ,

コロナ禍の今、岡山県の子育て家庭を応援!!

援が、 みが必要なのです」 多様なニーズに対応できる支援 は自分たちでも必要な物資を購入し、 それらをタイム て飲ませら 人ひとりに心を配るこのような支 宇野さんやお仲間の人柄であり、 IJ 1 K 確 保するために 0 仕 組

市町 L る 0) が パ が 1 41 ワー 村 0) 常だが、 時 Ŕ モ 蕳 = 1 ブ もかかり 1 0 口 は見事と言うほ 細 0 ジ ネ これ 0 エ ッ 世 ŀ ク らを短 帯 機 1 動 は 来 の支援を目 性 0 かな 期間 岡 が損なわ Ш 県 で実 41 内 指 現 れ 0) る 全 す

> を担当する 来は県南

つに分け、

このうち

ハ

1 新

ッ

ŀ

未 域

0)

西部

0)

井

经

•

見 モニネ

高梁

地

かな支援をしようとすれば 家庭があります。特に子育て家庭の中には、毎日食べるもの 切り詰めながら生活している家庭もあるのです。 素晴らしさだ。 私たちは、今回のプロジェクトにより食材や寄付を集め 各家庭へ食料や日用品を配布し、地域で子どもを支える 仕組みづくりに取り組みます。 ラウド みなさまの ァンディンク ご支援を よろしく 挑戦中! お願い致します! 7 目 お 標 330万円 目標金額 金額 ŋ 募集期間 ば 3 3 クラウド 11月11日(水)~12月25日(金) 0 クラウドファンディングサイト「READY FORJICアクセス 万 ファン して頂きますと、webからのお申し込みが可能です。 お申し込み方法等の詳細は、READY FOR を検索か、 円。 右記のQRコードからアクセスしてご確認ください。 くわしくは裏面へ 県内 ディング お問合せ 全域 でを3 で

おなかいっぱい^{}を目指して、 子どもたちの クラウドファ ンディングに挑戦した

っと困っている人がいる』 生活が厳 L 13 家庭 ほど、 と考えてし ほ か K

もちろん、

貧困

問

題が食料支援

だけ

います」

せて対応できるような方法も準備して

ち合わせるなど、

各家庭の状況に合わ

もらう、家まで届ける、

他の場所で待

す。そのため、受け渡し場所まで来てうことにはとても大きな意味がありま

で窮状を把握するのは難しく、

直接会

た家庭は、

電話やSNSの対応だけ

食料や日

用品を配布します。

また、

コ

ロナ禍において急激に生活状況が変わ

のスクールソーシャル

ワーカー、

支援

団体等とも連携し、

つながった世

えるために、

行政、

岡山

県教育委員会

まうこともあり、

支援の手が行き届き

る家庭とつながる入り

Ó

どんな家庭も取り残さずに支

で解決することはない

が、

なかいっぱい食べる幸せ」

を届けるこ

一人ではない、

応援してくれる

たい。そして、この活動が困窮してい 人がいるという安心感を持ってもらい 認定NPO法人

ハーモニーネット未来

動 たすけ愛社会の創出 目 その先にはきっと私たちが りの 豊かさとは何かを問 こんな状況の中で、 なり、 ると信じて、 合っていきたいと思います。 に対しての優しさや思 人間が本来持っている他 めて人間の幸せとは してくれた宇野さん。 いきたい、 政や専門機関につなぐこと 援を必要している家庭を行 突然始まったコロ に取り組んでいきます」 指している『ふれ 真の解決に結び付けて 共感力を発揮し、 その中で専門的な支 と力を込めて話 これからも活 一ナ禍 何 い直し、 あらた があ 助 か、 け

子どもから高齢者、障がい者、若者、今を生きるすべての人が安心して、自分らしく生活できる地域社会の創出に寄与することを目的として活動を展開。柱となる主な事業は、①子育てひろば「あおぞら」(親と子どもの居場所や交流の場の提供、講習の実施・情報提供等、安心して子育てするための支援や仕事と育児の両立等のサポート)、②ふれあいひろば「虹」(世代を超えた多様なふれあいの場の提供、互助システムを活用した家事等生活支援等の制度外サービス)、③シェアライフ「ハーモニーはうす」(緊急に一時的に住むところでお困りの女性のための家。一人親家庭、独居高齢者などを対象とした自立支援事業)、④いのちまるごとプロジェクト(一人親・生活困窮者の課題解決のための事業)など。

●連絡先/〒714-0081 岡山県笠岡市笠岡5909 電話 0865-63-4955 ホームページ http://hamomira.or.jp/

国に「緊急提言」を行いました

希望するすべての要介護者に助け合いによる生活支援を!

厚生労働省は、住民主体の活動でより広く要介護者の日常生活を支援することができるよう、昨年10月に省令を改正しました。これにより、今年4月から要介護者が助け合いによる生活支援を選択できる仕組みになりましたが、ただし、「要支援の段階からの継続的な利用であること」が要件とされました。この改正に対しては、「要介護者への介護給付をはずす布石ではないか」といった誤った認識で一部に反対意見が出ており、改正措置自体を採用しないよう働きかける動きも見受けられます。

さわやか福祉財団は、要介護の状態になっても、誰もがお互いさまの助け合いでつながりながら、地域でいきがいを持って暮らせる仕組みをこれまで提言し、その取り組みを全国で支援してきています。

これから、全国の自治体において 要介護者の希望を叶えるための正しい政策が実施されるよう、 皆様のご賛同をぜひともお願いいたします。

> さわやか福祉財団のホームページに ご賛同申し込みフォームをご用意しています。

https://www.sawayakazaidan.or.jp/proposal/proposal-form/

がり、

くないで

第2回

本当の豊かさとは

宅や好きな場所でリモートで仕事をする人も増加する今、 コロナ禍になり、 東京から転出する人が増えていると言われています。職場に行かず、 幹子さん(長崎県対馬市) 「本当の豊かさって何だろう」と 対馬市 (長崎県)

さんは、およそ10年前に長崎県の離島、 全って何だろう」と価値観の転換を迫られたのではないでしょうか。青森市出身の川口幹子 各地で大きな災害が起きるたびに、おそらく多くの人たちが「本当の豊かさ、本当の安心安 した。それは柔軟にしなやかに生きる、 のために「現場を持ちたい」という強い思いからの行動でした。2011年6月に移住した 高齢化率60%を超える対馬市志多留地区の集落です。たくさんの地域の人たちとつな 子育てをしながら、 地域を活かした仕事を生み出し、 一つの〝豊かな暮らし〞のあり方でした。 対馬市に移住しました。それは大学での研究の実現 いきいきと暮らす姿を取材しま

考えた人も多いのではないでしょうか。まもなく10年になる東日本大震災、そしてその後も

(取材・文/さわやか福祉財団理事・新地域支援事業担当リーダー 鶴山芳子) は機能を失う体験」をした。また、勤務先の東北

実現したい夢のために

大学も大きな被害

予定だったが、その前日に東日本大震災が起きた。 り、スーパーもガソリンスタンドも長蛇の列。 飛び込んだ所が対馬だった。協力隊に応募し、 対馬を選んだわけでもなく、地域おこし協力隊を 保全につながる地域づくりを行うというもの。 考えたとき、目に留まったのが対馬市の島おこし その実現のために自分のフィールドを持ちたいと 暮らしていた仙台では、ガスや電気、流通が止ま 類審査に通り、2011年3月12日に面接をする 知っていたわけでもなく、実現したい夢のために の当時の率直な気持ちを笑いながら話す川口さん。 れはツシマヤマネコをはじめとする島の動植物の 協力隊の任務「生物多様性保全担当」だった。そ 口さんのテーマは、 「できれば離島でなくて本州がよかった」と、そ 「災害時、流通がストップすると、途端に都市部 東北大学で生態学の研究者として働いていた川 「持続可能な社会の実現」。

> を経て無事採用と ンラインでの面接 失った。後日、オ 人など周囲の多く を受け、後輩や知 の人たちが家族を

髪引かれる思いだったけれど、同時に、今こそ実 なったが、「こん しまっていいのだろうか」と悩みながらも「後ろ な状況で東北を離れ、逃げるように対馬に行って



による離農の問題の根っこは同じ。人の暮らしと 参加した。「ツシマヤマネコの減少と過疎高齢化 ところから」と本を読み、関係する多様な活動に 生涯かけて実現したい夢であり、定住が前提。

の手段だったが、大切な期間となった。もともと

地域おこし協力隊の3年間は夢を実現するため

年目は"対馬を知る"時とし、「ヤマネコを知る

決断して対馬に飛び込んだ当時を振り返る。

践すべきときだという思いを強くしました」と、

そして地域に入り、たくさんの住民から話を聞 活かして人が暮らせる社会に戻したい。自然の豊 かさを活かした産業をつくろう」と動き出した。 起こしている」。 川口さんは、「自然の豊かさを 経済活動が自然から乖離してきたことが、地方の

ましたが、地域の方々はプロフェッショナルだと 衰退と生物多様性の減少という2つの問題を引き 「最初は農業や漁業の担い手になろうと思い

> ることにした。 セプトに人を呼び込み、 地域ファンづくりを進め

地域に学び、生み出した仕事は 「暮らしそのものが観光資源

ぼ再生研修」、 ほかにも「古民家再生塾」など、 験ツアー」、 耕作放棄地の再生技術を学ぶ「田ん を活用した地域の暮らしを体験する「島暮らし体 集まり、5日間滞在して学び合う事業。自然資源 ムである。全国から30名を超える学生や社会人が ループワークから構成される合宿形式のプログラ 生と里山の生物多様性保存をテーマに、講義とグ 12年から始めた「島おこし実践塾」は、過疎再

法は、ショック療法なのか何 る課題を直視し、徹底的にデ ものを材料とした多様な学び 過疎地での自然の豊かさを活 のプログラムを実施している。 かした地域住民の暮らしその ィスカッションするという方 「目の前に現実的に生じてい

それゆえ、地域資源に依存する暮らしや、そのよ

る意味、開発から取り残されていた歴史があり、 仕組みづくりが始まった。「離島である対馬はあ 役になろうと思ったのです」と新たな気づきから 気づきました。だから、そこに人を呼び込む仲介

教材がたくさんある」と、

"学べる集落』をコン

生物多様性の劣化、空き家問題など地域の課題の

かさ』を示すものとしてモデルになる」と川口さ 値観の転換を迫られている今、次なる世代の『豊 に残っています。こうした暮らしは、日本中が価 うな暮らしの中で醸成された文化や習慣がいまだ

「過疎高齢化や耕作放棄、それに伴う里山の



「島おこし実践塾」 での ば打ち体験の様子

さままち 2021.1 • 24 •



なのか、大いに効果があるようです」とのこと。 婦人会が地域食材を使った食事提供を行うなど婦 などの学生が一定期間滞在して地域の活動に参加 在する活動も行われた。このインターンの仕組み 京都大学大学院などの学生が4か月もの長期間滞 力創出モデル実証事業に採択され、大学と連携し 価され、13年には、総務省の「地学連携」地域活 換える方法を考えていった。そんな取り組みが評 るうちに、対馬の魅力と資源は、学び、であると、 加者の心をつかんだ」という。そんな実践を重ね が壇上での講師の話よりも、よっぽどリアルに参 での民泊となる。参加者のアンケートで最も高評 プログラムは、地元の農林水産業で暮らす住民宅 しながら学んでいる。学生たちの活動で、 は現在も続いており、毎年、立教大学や明治大学 て取り組む地域づくりの体制ができた。当時は、 しに入り、地域の人とダイレクトに交流すること 価を得たのは民泊体験だった。「地域の人の暮ら ホテルも旅館もレストランもない地域での滞在型 「学びの島・対馬」を目指して教育資源をお金に 地域の

まれた。材提供者にも謝礼を届けられるような仕組みも生材。(志多留を文字っている)を立ち上げた。食

人会が再生し、配食サービス「舌るんるん倶楽

心をつかんで離さない対馬の魅力

がっています」と解説してくれた。都会にはない、 がっています」と解説してくれた。都会にはない、 がつています」と解説してくれた。都会にはない、 が見え、誰に支えられているか実感できる場だと を表現する。それはたとえば、「家に帰ったら、 と表現する。それはたとえば、「家に帰ったら、 と表現する。という。また、地域社会 いうことであり、生きていく上での安心感につな いうことであり、生きていく上での安心感につな

あり、大きな魅力の一つでもある。間の成長にとっても大切なベースをつくるものでの人と人とのつながりで得られるもの。それは人地方の暮らしの中で当たり前に得られるたくさん

過疎における子育てと暮らし

出勤に地域の人たちが声をかけるのだ。出勤に地域の人たちが声をかけるのだ。 対馬で暮らして3年経つ頃、いつもいろいろな 対馬で暮らして3年経つ頃、いつもいろいろは 対馬で

+

いる。

意外だったのが、対馬は物価が高いということ。意外だったのが、対馬は物価が高いというに家賃が高いんですよ」とのこと。離島だというに家賃が高いんですよ」とのこと。離島だというに家賃が高いんですよ」とのこと。離島だというに家賃が高いんですよ」とのこと。離島だというではネット通販で買えるし、生活の便利さをどこにばネット通販で買えるし、生活の便利さをどこにはネット通販で買えるし、生活の便利さをどこにはネット通販で買えるし、生活の便利さをどこにはネット通販で買えるし、生活の便利さをどこにすぎないと話す。

「島っこ留学」

川口さんが取り組んでいる事業に「島って留

預けなければ仕事ができない。しかし、昔の人た出産すると、仕事を中断し、復帰しても子どもを

もの奪い合いになります」と笑って話す。都会でん」ときっぱり。「子連れで会議に行けば、子ど

「子育てをやりにくいと感じたことはありませ



卓を囲み、子ど

ってみんなで食



ーー 島っこ留学の子どもたちも暮らす古民家 事務所。子どもたちも薪割りを体験

でんやお兄さん のように接し、 のように接し、 家族のようだ。 を焚いて、いた

もたちは配膳や片づる。川口さんの子どる。川口さんの子どもたちも小さな兄弟のように一緒に遊んでいる。ここでは、でいる。ここでは、でいる。

学」がある。種まきから収穫まで、農業の一連の

プロセスを体験で理解し、自然の恵みを感じなが

ら自然と共に暮らす年間プログラムである。

「実は、島って留学は自分の子がのびのび暮らしている。皆ている子どもたち」といる。

どもたちが学校から帰ってきた。川口さんと共に

取材した日も、午後4時頃に「ただいま」と子

「対馬グリーン・ブルーツーリズム協会」で働く

生、小学5年生、4年生の子どもたちが、まるで

で暮らし、地域の学校へ通い、地域の人たちとの

っこ」の子どもたちは、空き家を改装した古民家

つながりの中で暮らしている。今年度は中学3年

きょうだいのような関係で生活している。

「保育園や学校から帰ってきて、入れているんです」という。どものためにも、と思って受け

昨年11月3日の祝日、朝から子どもたちの紅茶ら、暮らしやすい環境もつくっているようだ。さん。対馬の自然や人も含めた魅力を活かしながだり、目上の子に憧れたり、年下の子をかわいが子ども同士が地域での遊びの中で役割分担を学ん



子どもたちの声が響く。満面の笑みで高齢者らが る姿があった。 子どもたちは集落を手分けして1軒1軒を回った。 家から顔を出し、うれしそうにクッキーを受け取 空き家の目立つ集落で「こんにちは」とかわいい 組み。「きっと10倍になって返ってくるよ!」と、 ーを配りながら日頃の感謝を伝えようという取り クッキー作りが始まった。地区の皆さんにクッキ

自らの存在意義を実感 人間を取り戻せる場を

現在、 で何役もこなし、ここでの役割を「一人ひとりの ガイド、子どもたちとの交流、情報発信など一人 る。メンバーの皆さんはそれぞれ、事務から講師 かした学びによる多様なプログラムを実践してい 事をし、移住者と地元の若者5名と共に地域を活 して、対馬グリーン・ブルーツーリズム協会の仕 心感は、地方生活の特権」。 そう話す川口さんは 自分が何によって生かされているのかが見える安 「日本一豊かな場所は東京ではないかもしれない。 一般社団法人対馬里山繋営塾の代表理事と

> そして期待されて ウエイトが大きい、 反応もよく見えて いることも大きく、

して、横浜や東京 話してくれた。そ わかりやすい」と

出身の20代の職員たちに移住の理由を聞くと、 を感じさせる。歯車の一つではない、責任の大き 表情はいきいきとし、ここでの暮らしの充実ぶり 「川口さんに騙されました(笑)」。 しかしその

けた挑戦は続く。 という川口さんの「持続可能な社会の実現」に向 な魅力に気づき、実感し、そこに新しい価値を見 と川口さん。よそ者だからこそ、その土地の多様 「〝人間を取り戻せる〟、そんな場をつくりたい」 いだし、それを活かした仕事を生み出している。 おかない、という自らの存在意義を実感できる場 「ここは、島外からふらっと来たら周りが放って さとやりがいがあるのだろう。

る 皆様のご支援により全国各地の助け合いを助成してい 「地域助け合い基金」。状況をご報告いたします。

てはなりません。つな

)助成実行額 313件 寄付受付額 168件 このほかに当財団より6千万円を供出 4110万350円 918万6200円

12月15日

当財団ホームページ開示時点

そのものです」「ピン 来をつくる取り組みを 知恵を出して明るい未 チをチャンスに変え、 はまさに連携の仕組み

す。今後とも、 微力ながら応援させて 力強いご支援・ご寄付 ージもいただいていま 大変ありがたいメッセ もらいたい」といった 皆様

を進めようと、全国の団体・個人の方から熱意ある助成 困っている方々を一人でも多く支援し、地域の助け合い いることが、各種報道等からも明らかになっていま

コロナ禍により、

生活困窮や人々の孤立化が進行して

がりを広げるための 『地域助け合い基金

申し上げます。 を何卒よろしくお願 (事務局長・内田)

分断から連携へ、我々はこの危機を乗り越えて行かなく

円を供出し、助成資金といたしました。

また、

で寄付いただいた方からは、

「コロナ禍の中、

月30日に当財団「國吉眞惟・蓮子基金」から3000万 申し込みを多数いただいています。これに伴い、昨年11



クレジットカード 決済ページ



財団ホームページ内 基金関連ページ

当財団ホームページでは毎日、 付と助成金額を開示しており、助成 な金額もご覧いただけます。 付や助成をお考えの方は参考にして ください。

基金に関する情報、およびクレ ジットカード決済は、QRコー ドもご利用ください!

基金に関する ご意見・お問い合わせ <地域助け合い基金担当>

電話:(03)5470-7751 FAX: (03) 5470-7755

メール: mail@sawayakazaidan.or.jp

応援ありがとうございます!

.地域助け合い基金」助成先のご紹介

紹介します。なお、活動報告は当財団ホームページに全件アップしていますので、ぜひご注目ください。 金」。 助成させていただいた団体からの活動報告が日々届いています。今月号も3団体の活動と助成後の報告をご 皆様のご寄付を原資に、コロナ禍に負けない全国各地のつながり・助け合いを支援している「地域助け合い基

長野県長野市

メッセージボードが住民をつなぐオトコの料理教室レシピ集と

大豆島地区住民自治協議会

助成金額 10万円

して、サロン活動、見守り活動、環境美化活動、防犯・防特性を生かしたまちづくりを進めるための住民主体組織と大豆島地区住民自治協議会は、市と協働しながら地域の

災・交通安全活動等を行っています。料理を通して食生活

本基金の助成「今までと同じでなくても何かできることはないか」と、

料理教室」も開催してきましたが、コロナ禍で休止に。

の自立と男性の地域社会参加を目的に年6回、「オトコの

金で料理教室 のレシピ集を に成しました。 これまでの参 たところ、 たところ、



レシピ集表紙

けるという形式で教室を開催しました。また参加者以外の地域の方からも「妻からレシピ類理工程を動画撮影してもらい、参加者が会場で講義を受集まっての調理ができない中、8月には料理教室の先生に料理教室に参加したい」等の反響があったそうです。皆がおり、また参加者以外の地域の方からも「妻からレシピがあり、また参加者以外の地域の方からも「妻からレシピけるという形式で教室を開催しました。

また、サロン活動も休止しているため、〝Withコロ

ナメッセージボー ・ドボを作り、総合 市民センターに掲示。りんで形のカードに住民が「コロナの中でやって みたいこと」「コロナの中でやって みたいこと」「コロナが終息したら やってみたいこと」を記入して貼りました。これは、 りました。これは、 りました。これは、



掲示されたメッセージボード

大変嬉しく思います」とコメントを寄せてくださいました。取り組みが他地域でも始められていることに驚くとともにのぎな気持ちになれそうです」との報告をいただきました。向きな気持ちになれそうです」との報告をいただきました。前ので、「毎日りんごの実が増えていくのを見ていると、前ので、「毎日りんごの実が増えていくのを見ていると、前ので紹介している奈良県生駒市の活動を参考に行ったもいている動画「NEXT」心と心をつなぐ工夫と取り組している動画「NEXT」心と心をつなぐ工夫と取り組

大阪府豊中市

地域のつながりも強まったコロナ禍の子どもたちに楽しみを提供

団欒長屋プロジェクト

助成金額 10万円

し、「豊中あぐりプロジェクト」で収穫されたスイカの提会福祉協議会の「豊中こども食堂ネットワーク」にも参画会福祉協議会の「豊中こども食堂ネットワーク」にも参画会福祉協議を中心とした活動に取り組んでいます。同市社会福祉協議を中心とした活動に取り組んでいます。同市社の機長屋プロジェクトでは、乳幼児および学童保育、子団欒長屋プロジェクトでは、乳幼児および学童保育、子

とです。 ことです。 たとです。 ことです。 ことです。 にとなった地元の が涼祭の代わりに、 三二縁日を企画。 夏休みが半減して しまった近隣校区 の小学生たちに夏 の小学生たちに夏



ミニ縁日の様子

ども食堂のテイク

た。本基金の助成金は、この縁日のボランティアスタッフを同時開催しました。当日は140名の来場があり、ボラがあることもわかったため、今後はこども食堂や一人親支があることもわかったため、今後はこども食堂や一人親支があることもわかったため、今後はこども食堂や一人親支があることもわかったため、今後はこども食堂や一人親支があることもわかったため、今後はこども食堂や一人親支があることもわかったため、今後はこども食堂や一人親支があることもわかったため、今後はこども食堂や一人親支があることを表している。

れました。イスシールド・消毒・手袋等のコロナ対策費として活用さょうちん・パラソル等の備品、画材、チラシ制作費、フェ人件費、おもちゃすくい用のおもちゃとポイ、POP・ち人件費、おもちゃすくい用のおもちゃ

展望を寄せてくださいました。えるまちづくりを今後とも進めたい」と、とても前向きなけ禍でそれぞれができることを持ち寄り、主体的に支え合とができました。イベント時だけでなく、自然災害やコロ「ミニ縁日開催で、地元の方々とのつながりを強化するこ

阪」の12ページ~でも紹介しています。 9年10月号「特集」いきがい・助け合いサミット.in大※「豊中あぐりプロジェクト」については、本誌201

福島県いわき市

地域と連携し未来につながる作品展開催被災地で、閉じこもる高齢者のため

NPO法人おたすけ倶楽部

助成金額 10万円

おたすけ倶楽部は一人暮らし高齢者等を対象に、定期的

市も行っています。 一大禍においては感染 できました。また、コ できました。また、コ できました。また、コ の大禍においては感染 のが止用のマスク作りと のを必の語動を行っ のが止れのマスク作りと のが止れのマスク作りと

の高齢者など地域住民閉じこもりがちな地域東が見えない不安の中、

に呼びかけ、地元の芸



ぶりに声をかけ合って鑑賞に訪れ、懇談する姿が見受けらは9名の芸術家が参加、閉じこもりがちな方々などが久し3・4日、同市久之浜町大久町地区で開催された作品展に等作成、通信費、会場費、飲食費に活用されました。11月



展」を復活させるきっかけにもしようという取り組みです。芸術によるまちづくり事業「地元アーチストによる作品すことと併せて、東日本大震災前は毎年秋に開催していた

本基金の助成金は、この作品展の出展者への謝礼やチラシ

久之浜町大久町地区で開催された作品展

の協力を得た、との報告がありました。

の協議体や生活支援コーディネーター等による周知活動へれたそうです。地区町内会や地区社会福祉協議会、第2層

地域団体に働きかけ、作品展は継続していきたいというこ寄せられているため、地域たすけあい活動の潤滑油として震災被災地のこの地区で、来年度の開催を望む声も多数

とです。

場・居場所をつくり出集会場で新たな交流の制を整え、身近にある催を計画。感染防止体

つながろう、心で 広げよう、笑顔の助け合い!

「地域助け合い基金」でコロナ禍を乗り越えて共生社会へ

【助成応募のご案内】

1.期 間 常時受付。基金の範囲内で、配分は随時行います。

2. 対象とする活動

共生社会を推進するための助成として、地域で暮らす人同士の助け合い活動(つながりづくりを目的とした居場所や地域活動を含む)。新たに団体を設立する場合のほか、新たに活動を広げる場合やコロナ禍に対応して特別な助け合い活動を行う場合も含みます。高齢者、子ども、認知症、障がい、生活困窮の方々、刑余者、外国人、ケアラーの支援ほか、分野は問いません。ただし、日本国内の活動に限ります。

3. 助成額・回数

助け合い活動の開始、維持、発展のため具体的に必要とする額。上限15万円。原則として1回。ただし、やむを得ない時は2回。

4.助成の対象

法人格の有無を問いません。個人による活動も含みます。

5. 応募方法

当財団ホームページの「助成応募要領」で詳細をご確認のうえ、申込書および必要添付 書類をメールまたは郵送にて当財団までご送付ください。

<メール送付先> tasukeai-kikin@sawayakazaidan.or.jp

<郵送先> 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階 公益財団法人さわやか福祉財団 「地域助け合い基金窓口」

6. その他

助成金を活用して行った取り組み内容、活動の効果をご報告ください。

助成応募時の推薦、あるいは、助成を受けた活動の報告ご提出時に、地域の生活支援 コーディネーターとの連携をお願いしています。また、助成した活動の報告内容について は、当財団のホームページや冊子等で公開させていただきます。

【総合お問い合わせ】 公益財団法人さわやか福祉財団

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階 電話(03)5470-7751 FAX(03)5470-7755

メール mail@sawayakazaidan.or.jp

※応募書類の送付先メールアドレスとは異なりますのでご注意ください。

新しい ふれあい社会づくりに 向けて

いきがい 一 ふれあい 一 助け合い

さわやか福祉財団は、子どもから高齢者まですべての人が、 それぞれの尊厳を尊重しながら、いきがいをもって、 ふれあい、助け合い、共生する地域社会づくりを一貫して進めています。 特に現在は、全国自治体が新地域支援事業で取り組んでいる 住民主体の助け合いの地域づくりを強力に支援しています。 どうぞ、皆様の地域の情報もお寄せください。

- 新地域支援事業・助け合いの地域づくり 北から南から 各地の動き
- ◆その他の財団の活動 など ご支援ありがとうございます。さわやかパートナー (賛助会員)・ ご寄付者の皆様のご紹介

NEWS & にゅーす さわやか活動日記(抄)



北から 南から

地域支援事業 各地の動き

(2020年11月1日~11月30日)

全国各地で 活動の一部を紹介しています 推進の支援をしています

住民に参加を呼びかける (住民対象のフォーラム、

軽米町

(岩手県)

くりとコロナ禍での助 1層協議体 したい狙い 15日/軽米町で、 財団 が で市民フォ 「結っこの会」が3地区で 浓協力。 2層3圏域 同 がけ合 町 ーラム は 昨年度、 いの普及を が開催さ の体

> 受け、 てバックアップしてほしいとの依頼 手県のアドバイザー派遣事業を利用し いた結っこの会も昨年6月に再開 も協力してきた。コロナ禍で休止して ミニフォーラムや座談会を実施 関わることとなった。 財 を 団

予定で、 1 いうちに12月3日に座談会を開催する 成感でいっぱいの様子だった。アンケ くさんおり、 ずねると、 体の動きに参加したいという方」とた めたいと参加された方」「地域 加された方」「これから助け合いを始 報交換に協力した。 の生活支援コーディネーターとして情 の目崎智恵子リーダーも群馬県高崎市 や参加者との情報交換が行われ、 として講演したほか、 「コロナ禍における多様な取り組み 「コロナの中での助け合い再開 このフォーラムでは、 記名者などを対象に、 財団も引き続きバックアップ 協議体に参加したい人がた 結っこの会の皆さんも達 最後に、 庁内の事例紹介 財 熱が冷め 团 参加者に で協議 鶴山 にと参 財団 が

> してい く。

杉並区 (東京都)

力員 13日 たもの。 行ったり、 月15日から事前申込者にネット配信を 方々)」 および一般住民とし、 区内に470名ほどいる「あんしん協 象者を拡大し、第2層協議体のほかに 実践報告が行われる予定だったが 財団の清水肇子理事長の講義と地域 体と一般住民を対象とした講演会で当 会で活用したりするための撮影を行 ロナ禍で中止となっていた。 /昨年2月、 (住民への見守りや声かけを行う DVDとして協議体の勉強 杉並区の第2層 今回 昨 年 12 協 0 対 0 コ

必要かを考えてチャレンジすることが 都区部では 役割と出番づくりの必要性、 めよう~」をテーマに、 け合い活動と共生の地域づくりをすす つながり・見守り活動のすすめ 清水理事長から コ 口 ナ禍におい ″知縁′ 「コロナ禍に ても何ができるか、 づくりがポイント 地域における 特に東京 お ける (助

鶴

Щ

答やN れた。 重要であるとの話が、 EXT動画の紹介も交えて行 事前質問 ^ 0) 口

あんしん協力員の活動を通して感じて でゆるやかな助け合い活動が行わ 確認カードを作成する等、 子氏から発表された。 しん協力員として活動している山 野修二氏と、 操を継続している天沼尚和会会長 情報共有の方向について検討され始め 題が挙げられ、これをきっかけに区で いることの一つとして、 いる様子が報告された。 定額給付金の申請を手伝ったり、 参加して毎日行われ、 ラジオ体操は 実践 報告は、 元民生委員で現在はあん コロナ禍でも50名ほどが 地 |域で20年間 昨年の 鹿野氏からは、 情報共有 山本氏からは 参加者同 ラジ 国 |の特別 安否 の課 n 本容 の鹿 オ

祉協議会へ 財団としては今後も、 の情報提供や支援を行って 区や区社会福 上田

生活支援コーディネー 夕丨

わ

洋野町 (岩手県

割を確認し、 16 日 目﨑智恵子リーダーの高崎市の事例紹 から進めていくかを検討してほしいと、 から始める必要性などを共有し、 活支援コーディネーターと協議体 住民主体で進める必要性と、 ず生活支援体制整備事業の意義を確認 氏と松田直美氏に話を聞きながら、 生活支援コーディネー 援することになった。 ドバイザー づくりを進めたい意向で、 大谷地区をモデルとして第3層 / 洋野町では、 派遣事業として当財 目指す姿を考えるところ 第2層種市地域 ター この日は第2層 岩手県 0) 高屋 行政や生 団 の どこ)体制 :の役 が支 0) ま 恵 0

ま

新潟市 (新潟県)

ップしていく。

介とともに提案した。

今後もバックア

鶴山

10日 イネー /新潟市の第1 ター 連絡会が新潟市江南区で行 層生活支援コー

> サービスを仲介する事務局機能ではな ることが話し合いから浮き彫りとなり、 域を目指したお互い様の助け合いであ がご近所で「助けて」と言い合える地 の再開に向けて議論した。 組んできた現状や課題を共有し、 課、 月迪洋政策調整監、 していたが、 助け合い「お て参加した。 てもエンジンメンバーから学んだ。 メンバー 区計8名の第1層生活支援コー これまでも有償の助け合いを実践 ターとエンジンメンバー、 新潟」 当 つなぎ役としての役割を財団とし 当 財団)で、 財団 (河田珪子アドバイザー はサービスではなく、 その 互い コロナ禍により、 も戦略会議メンバーとし さき 2018年から取り 再開に向けて市内各 同市包括ケア推 新潟」 「お互 戦略会議 は休止 ディネ 有 誰も 今後 いさ 償 進

きを課題を解

碧南市(愛知県)

含め財団から情報提供した。 禍における取り組みなど全国 事業の推進に向けた今後 として碧南市高齢介護課から相談 4 日 いて関係者と意見交換を行 当財団が協力。 、愛知県のアドバ 生活支援体制 イ ザー 0 戦 W 略等につ 派遣事業 0) 事例を コロナ (長瀬 を受

宿毛市 (高知県)

意見交換も行った。 (長瀬) 登け、生活支援体制整備事業に係る関受け、生活支援体制整備事業に係る関係者勉強会をオンラインで実施した。係者勉強会をオンラインで実施した。

壱岐市 (長崎県)

社会福 財 担当行政、 として、 オンラインで参加 25日/長崎県のアドバイザー派遣事業 **、団から | 生活支援コーディネーター** ター 祉協議会、 当財団が壱岐市での研修会に まちづくり協議会等関係者。 地域包括支援センター 生活支援コーディネ ・協力した。 対象は 市

> また、 とに期待したい う地域づくりに向けて、 したこれからの住民主体による助け合 豊かなつながりや助け合う関係を生か 減少が進む今後に向けて、これまでの 握などの実例を紹介し共有した。 組みを紹介し、 イネー この日は対馬市第1層生活支援コー 馬市をモデルとしたいということで、 の役割について」とする講義を行った。 ター 壱岐市は身近な近隣の離島、 の斎藤貴紀氏が同市 体制づくりやニーズ把 動きが進むこ 'n 鶴山 取 'n 対

佐々町(長崎県)

型居場 26日 のつながりづくりや、 で町内会単位でのサロンをはじめ住民 組みで全国的に有名な同町は、 防をはじめとする地域包括ケアの 考える」に当財団が参加 として、 日常生活支援を充実する移動 /長崎県のアドバイザー 所 佐々町で地域づくり講 「元気カフェ ぷらっと」 した。 つでも誰 派遣事業 これま 介護予 支援を 取り 演会 でも

> きた。 上げた経緯と取り 層生活支援コーディネー 演会が開催された。 移動支援を始めたいとして、 たため、 いで紹介した。 いる会」 々で10月から始まった「こさざ・ する移動 その後、 の鴨川幸次会長と山本敏第2 のニーズが 「ぷらっと」 買い物支援をはじめ 組みについて熱 隣の佐世保市 あることがわか が中心となっ ター 今回 が、 立ち すま W 小 0 佐 思

る予定。 では、 がら1月には具体的な話し合いが始ま ŋ りと移動の心構えなどを紹介し、 例など住民主体の助け合いによる見守 とがある。 と慎重になってスタートを切れないこ 組 移動支援は道路運送法の勉強をする んでみよう」と呼びかけた。 包括と社協がバックアップしな 財団 から、 Ш 形 や群 (鶴山 同町 0 取 事

研修会・勉強会等に協力

美里町(埼玉県)

年前に立ち上げ、

住民主体も推進して

7

いる。

た後、 れ、 きと語られた。 との発表では、 グルー 援していく。 する予定で、 体験ゲーム、 財 団から助け合いにつ 置 H 0) ため 民14 美里 プワー 感染対策を実施しての 名が参 町大澤地区で第2層協 第 1 財団としても引き続き支 クを行っ 目指す地域像に あと

2回 目指す地 加 口 住 た。 当財 民勉強会が いて講義を行 域像が 勉強会を実施 グルー 团 助け合 ついての も協 いきい

妙高市 (新潟県)

岡野

会を終え、 として、 支援コーディネー るため、 ートで協力。 ターと協議体 ある妙高地区で生活支援コー 14日/新潟県のアドバ アンケートでは、 3 回目 妙高市の第2層モデル 気持ちが冷め プ ワ が 1 目指す地 2週間前 開催され の選出を目 ク 協議体として活動し で意見を出し合 ターと協 ないうちに生活 域 に2回 イ 像 当 ザ 的とした勉強 議体に 1 財 を実現 団 目 ディネー 派 地域 もリモ の 遣 勉強 こった。 0 す

コー

具体的 った。 くりを固め、 た。これらを受け、 たいとの意見もアンケートで聞き出し 1, 区のNPOに事務局を」との声も多か いという人が6名、 交流など、 生活支援やちょっとした助 な名前もたくさん挙がり、 動き出す予定。 助け合い活動に参加 妙高地区 討 中 0) が 体 19 鶴山 制づ 行合 名 地

羽咋市 (石川県)

ている。 25 日 財団 の手挙げによる協議体の発足を目指し も継続して懇談会を開催 役割を伝えている。 市社協からは余喜地区の活動 市からは地 染対策を行っ 編成に向けた住民懇談会を実施してき で編成してきており、 羽咋市では第2層協議体を公民館 支えあいを考える会」 からは / 羽咋市余喜地 第1 助 区 一の状 け合いの た余喜公民館に集まり、 回目の今回 況と目指す地域 余喜地区では今後 区で「余喜地 各地区で協 が 意義と協議 は、 開催され の紹 十分に感 住民自身 介 体の 議体 像 巻 た 区 域 0

生活支援コーディネー

16

協議 からは群馬県高崎市の第1層生活 崎県波佐見町 点を意識してポイントを伝えた。 者が多かったため、 てもらったところ、 報交換で聞きたいことを事前に提 た際、 任者向けと行政向 智恵子が協力。 夫を知りたい ステップ②~③につ 集していた。 ター 日/岩手県内の の地域づくり推進を課題とする参 体 デ また、 :の活動 ステップ①~③の 連絡会に、 イネー とい ター 今回 コロ の事例等を紹介し、 同 0 Ž ナ禍での助け合 の ij !! 当 生活支援コー 0) ても取 3ステップもその 声 立場から情報 いて、 住民主体の助け 連絡会にあ 0 財団の鶴 が多か 研修会を実施 事前情報を収 h 鶴山 年7月 組 0 Ш み 「から長 たり た デ ため 特に 支援 目﨑 0 V 出 目 イ 加 合 B ネ

全国の事例を紹介し、

その後、

グ

ル

P

行 参

(本稿は、

上

Ш

恵子、

野貴代、

長瀬

鶴山芳子、

長瀬純治 岡

24 群馬県 た生活 備 社協等関係者と事業の進捗を確認した。 寸 もア 感想が聞 事業の推進を図 連絡会は、 1 たと思う。 地域支援事業の クに分けて本年度から実施しており 群馬 · タ ー ドバ 支援コー 1 ター **鸡果西部** イ 0 県庁主催で県内を5ブ ザー 話 連絡会が開催され、 デ が イネ る 聞け 特に生活支援体制整 として協力した。 地 有意義な連絡会にな 0 X が狙 1 の生活支援 タ 1

てよかっ を自分の地域 ブワー づくりをどう働きか クで他 関係者からは に生 住 市 第1層生活支援コー 町 民 村の かしたい」「 主 体 現状が把握 発表で共有 け てよかっ 0 「具体的な事 助 から 合 「グル た 13 で 9 0 地

2020年8月特別号

山

当

宮本太郎・堀田力 特別対談

青写真を描くのは地方自治体

~地域共生社会への道と難題~

コロナ禍を乗り越えた後、私たちはどのようにして皆が幸せに暮らせる社会を築 いていけばよいのでしょうか。

当財団会長・堀田力が中央大学法学部教授・宮本太郎氏をお招きして、今後の日

本における地域共生社会のために、3つの難題につ いて幅広い視点から話し合いました。

今後の共生社会づくりに、どうぞご活用ください。

目 次

選ぶ道は地域共生社会 地域共生社会への道筋と大きな課題

難題2 多様な特色(ダイバーシティ)を持つ 地方の共生社会の復活

難題1 外国人の受け入れと共生

難題3 A I ・ロボットの能力向上と共生社会

◎お問い合わせは広報まで 電話:(03)5470-7751 メール: pr@sawayakazaidan.or.jp



ありがとうございます 0

会費は寄付金の一種として大切に活用させていただきます。 さわやかパートナーは、本財団の趣旨にご賛同いただき、 財政的・精神的にご支援くださる賛助会員の皆様です。

また、個別のご寄付をいただきました皆様もご紹介させていただきます。 新規ご入会の会員の方、会員をご継続いただきました皆様も毎号ご紹介いたします。

,<mark>敬称略)(2020年11月1日~11月30日財団受付分)</mark>※なお、自動振替の場合等、処理日と財団受付日にずれが出て掲載時期がずれる場合がありますことをご了承ください

さわやかパートナー個人 (49 件)

都道府県別50音順

坂本 田 所 裕二 大輔 展一

弘子

相川

埼玉県

Ш

中

彦

和佐子 初江 弘津 鳴瀬 原 勝則 英輔 洸

麗子

下川 大藤

敏子 清隆 宮武 Щ \Box 恒俊 光吉 浩一郎

秋山 宮城県 戸田 大和田 岩手県 広山 加藤 鍵政

喜弘

烈

公明

前田

三浦

和彦

株式会社アバン

剛史

平居

田邉

古山 茨城県

西原 佐野 勝又 千葉県

隆夫

東京都 橋本

群馬県 佐藤

芳夫

純子

岡本

新宿グリーンビル管理株式会社

洲﨑 川 口 中島 浩平 晰 一雄

田田 岐阜県 和也

坂井 元嗣

高室 成幸

滋賀県

愛知県 髙橋 大阪

富山県 小泉 榮子

中村 高橋

愛子

府

吉田 播村 昭子

中峠 広島県

野口

喜久子

徳島

県

細井 高知県 啓造

さわやかパートナー法人 (12 件)

株式会社セラピスト

関彰商事株式会社

長野県生活協同組合連合会

50音順

NPO法人鎌ヶ谷たすけあい NPO法人さわやか埼 岡田運輸株式会社 かつ

0)

渡邉 神奈川県 正之 頼子 株式会社島津製作所 株式会社三省社印刷所 株式会社サンハート

> NPO法人寝屋川あいの会 般ご寄付 (4件)

藺牟田 忠男(1万円

野崎 髙橋 江本 愛子 (5万円 (2万円

晴行

(5千円

50音順

41 ● さままち 2021.1

いきがい・助け合いサミット in 大阪

『助け合い大全'19』

2019年9月に開催した「いきがい・助け合いサミット in 大阪」のすべてを収録した『助け合い大全'19』です。

サミットでの全体シンポジウムと各分科会における発言 要旨をまとめた『パネル編』、ポスターセッション出展の 全作品を掲載した『ポスター編』、そして『提言編』を3

冊セットで頒布いたします。 助け合い活動、*お互いさ まっの共生社会づくりに、 ぜひお役立てください!

お申し込みは当財団まで↓ mail@sawavakazaidan.or.ip 1セット2,000円(税込み) 送料別途

※3冊セットのみでの頒布となり ます。

【助け合い大全'19 提言編 目次】

- ●いきがい・助け合いサミッ トin大阪の意義と特徴
- ●全体シンポジウム発言要旨
- ●分科会 1~54 提言/登壇者/議事要旨
- ●ポスター展
- ●いきがい・助け合いサミッ トin 大阪を振り返って

地域助け合い基金ご寄付 (9件)

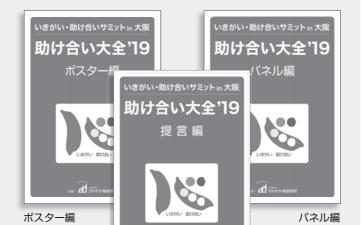
(ご寄付日付

匿名希望(1万円

中与 村 順子 (3万円

匿名希望 大泉 喜代子(10万円 子 (60万円 (1万500 ŏ 円

> V. 匿名希望 岡 脇 詩野 (3万円 (2万円 (1万円



w dd sion

提言編

さわやか福祉財団

助成金取扱規則を ました

同 致で承認されました。 見をいただき、質疑応答の後、 域共生社会づくり活動へ進む戦略 開催したもので、当日は、 新たに制定することを決議事項として まず堀田力会長が、 システムにより出席しました。 として一部の理事、 いて説明し、出席の皆様から貴重な意 様 助成金取扱規則の新設については、 の状況、そして、 新型コロナウイルス感染症対策 「地域助け合い 監事はウェブ会議 基金を契機 前回理事会 全会

向

団として関連規定も含めて見直してい や活動の方法、そして、 ごとにさまざまな動きが出てきて 支援事業が始まり5年が経過し、 いづくりをリードできる戦略パ のさらなる発掘などについて、 続いて清水肇子理事長より、 さわやかインストラクターの役割 地域で助 新 け合 地域 地域 1

合い基金」 開催しました。

金額が大きく伸びているため、 を立ち上げて以来、 会を東京都港区のメルパ

ル

理事会は、

け 7 2020年11月9日に、

臨時の ク東京に 「地域助 助 成

理

形成を目指します。 換が行われました。 きたいとの説明を行い、 3月に向けて合意 活発に意見交

定款の定めに従って助成金取扱規則を

明を行い、 11月2日に厚生労働大臣宛に提出し 「緊急提言」について堀田会長より説 が示されました。 その他の報告事項として、 緊急提言 の賛同を募る方 内田 当財団 信幸)



されやか活動 記 抄

〈2020年11月11日~11月30日〉

ふれあい推進事業 ふれあいの居場所推進

フロジェクト

居場所の勉強会で

[11月14日]

月の実施予定だったが、 くりについての講義を 所の勉強会で居場所づ 童委員を対象に、居場 岡西地区の民生委員児 り、千葉県木更津市波 委員協議会の依頼によ 千葉県民生委員児童 当初は20年3

> 子氏にも、同県内での トラクターの國生美南 また、さわやかインス 場所の事例を紹介し、 施となった。全国の居 延期になって今回の実 て10月には台風のため コロナ禍のため、 す活動として、 ターの参加もあり、 生活支援コーディネー 社会福祉協議会職員や

> > 2人、不慣れな環境の

就業体験が初めての

をもらった。 をもつ人を探して活動 してみたい」等の感想 の必要性がある。思い 域内の助け合いを目指 居場所 (大坪) 地

就業体験都立永福学園よ

4)

就業体験を行った。 等部1年生の生徒2名 が、各3日間当財団で 11月4~6・10~12日 東京都立永福学園高

業やパソコンでの書類 容も一つ一つ丁寧に行 作成など、どの作業内 中でも、事務の補助作 い、苦手なことも改善

しやり遂げた。

作業を進めていく中で、 という状況だったが コロナ禍でマスク着

遣いながらコミュニケ 笑顔で答え、互いに気 にも職員からの問いに 認し、作業終了報告時 ままにせず積極的に確 ても良い形で修了でき ーションも取れて、と わからないことはその



る関係をつくることが で地域の中で助け合え

に居場所をつくること 紹介してもらい、地域 居場所「欅」の活動を

の皆さんに加えて、市

の民生委員児童委員

地域の課題をよくご存 できるという話をした。

事務所だより 新しい生活様式の中でも、新たないきがい・助け合いが進むようにみんな で頑張ろう! ご参加をお待ちしております。 どのような形での開催になるかは状況をにらみながら検討中だが、 して9月には神奈川でのサミットも開催予定で準備を進めている。 **)新しい年が幕を開けた。3月は当財団の全国交流フォーラム、** Z



りない、ということが挙がります。 たらと思います。 時間に余裕のある人の集まりがあま ったとしても集まらない、 て毎年、男性の集まる場がない、 退職した人のみの専門学校があっ 地域包括支援センターの課題とし 退職

いつも楽しく読ませてもらってい

ます。

専門学校があったら・・・ 足年退職者 9

匿名希望さん



『さぁ、言おう』は、皆様の声を社会につなげる 問題提起型情報誌です。ぜひ、ご意見をお寄せください。

本誌で取り上げたテーマへのご意見 ・ご感想、人生100年時代の生き方、 ボランティア活動等のエピソードな どをお待ちしています!

あ

- *添付の投稿ハガキや投稿用箋などをど うぞご活用ください。
- *掲載にあたっては、誌面の都合により 編集要約させていただく場合があり ますので、あらかじめご了承ください。

送付先

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階 公益財団法人さわやか福祉財団『さぁ、言おう』編集部宛 FAX: (03) 5470-7755 \forall - \mathcal{I} : pr@sawayakazaidan.or.jp

私たちはふれあいあふれた地域づくりを支援しています

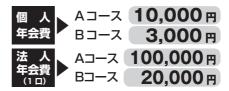
さわやか福祉財団の活動をぜひご支援ください。

『さぁ、言おう』はみんなで新しい社会のあり方を考える問題提起型の情報誌です

■さわやか福祉財団の活動をさわやかパートナーとしてご支援ください。

『さぁ、言おう』を毎月お手元に お届けいたします。

さわやかパートナーは、さわやか 福祉財団の理念と活動に共感して 会員としてご支援いただく賛助協力者の皆さんです。



公益財団法人さわやか福祉財団の会費は、特別な特典を付与するもの ではない賛助会費であり、寄付金の一つの形です。

■寄付金は税金の控除対象となります。

さわやか福祉財団へのご寄付は、所得税、法人税等の控除対象となります(所得税の寄付控除額の上限は所得の40%-2000円)。

一般ご寄付を いただく場合の お振込口座 口座名義:公益財団法人さわやか福祉財団 郵便払込 00120-9-668856※

三菱UFJ銀行 浜松町支店 普通預金 口座番号3731714 りそな銀行 芝支店 普通預金 口座番号1174297

※手数料不要の専用用紙をご用意していますのでお申し出いただければご郵送します。

*いずれもお問い合わせは、編集部あるいは社会支援促進チームまでお気軽にご連絡ください。(mail@sawayakazaidan.or.jp)



編纂後記●前月号に続いて、今月号でも新しい企画がスタートしました。堀田力会長が聞く「厨房男子」。第1回は、当財団の歴史に欠かせない存在の丹直秀さんです(P4~)。●「活動の現場から」は、さわやかインストラクターでもある宇野均惠さんが理事長の「ハーモニーネット未来」。多彩な支援を臨機応変に実施する行動力に驚かされます(P14~)。●「移住悪くないですよ」は長崎県対馬市に移住した川口幹子さん。本当の豊かさ、持続可能な生き方への示唆に富む取材となりました(P22~)。●今年もよろしくお願いします。



戦 Va の滑稽さを詠んでみました。 兵どもが

夏草や

夢

0)

跡」を踏まえて

戦

41

の空しさを詠んだ芭蕉の

名句

身は ヨタヘロ

それでも「これはヤ ル ッ キャナイ」と

厳 Ĺ 41 戦 41 に挑もうとする超高齢武者。

助け合いを 広げよう!

堀 田 さわやか福祉財団会長 公益財団法人 力



さま意まり 1月号

通巻329号 2021年1月10日発行

(毎月1回10日発行)

表 紙 絵 池田げんえい

イラスト すずきひさこ

福島康子

レイアウト 菊池ゆかり

印 刷 所 日本印刷株式会社

発行人 清水肇子

発行元 公益財団法人さわやか福祉財団

〒105-0011

東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階

Tel (03)5470-7751 Fax (03)5470-7755

E-mail pr@sawayakazaidan.or.jp https://www.sawayakazaidan.or.jp

Printed in Japan

無断複写・無断転載はご遠慮ください©

動画 「NEXT ~心と心をつなぐ工夫と取り組み~」

第4弾・第5弾リリース!

「コロナ禍にあっても、アイデアと工夫でみんなが笑顔になれる活動を紹介している当財団制作の動画「NEXT 心と心をつなぐ工夫と取り組み」(各8分程度)。第4弾・新潟県新潟市、第5弾・岡山県倉敷市がリリースとなりました。コロナの時代における助け合い活動のヒントとして、生活支援コーディネーターの勉強会のツールなどとして、ぜひご活用ください!





部屋に入れる人数を16人前後に制限



配信中のNEXT動画

第1弾 奈良県生駒市 あなたの「元気」を届けようプロジェクト

第2弾 静岡県袋井市 出前居場所・青空居場所・我が家のごはん届けます

第3弾 大阪府門真市 こんな時こそ地域の力で、ゆめ伴プロジェクト in 門真

第4弾 新潟県新潟市 受け身にせず「みんなで守ること」で活動再開

第5弾 岡山県倉敷市 つながる回覧・マスクプロジェクト

動画は、当財団ホームページでご覧いただけます。

https://www.sawayakazaidan.or.jp

厚生労働省の特設サイト「地域がいきいき 集まろう!通いの場」からもご覧いただけます。 下記アドレスのトップページから「交流」をクリックしてください。

https://kayoinoba.mhlw.go.jp/